C100 M100 Y100 K100 A4

円滑な被災者支援を目指して

久留米市災害ボランティアセンター設置運営訓練

5月27日(土)、久留米市での大規模災害への備えとして、「久留米市災害ボランティアセンター設置運営訓練」を実施しました。

今回の訓練では、総合福祉センター(長門石)に本部を、田主丸老人福祉センター(田主丸町)に現地事務所を、それぞれに立ち上げました。

運営スタッフとしてのボランティアへの期待

訓練には、市社会福祉協議会、校区社会福祉協議会連合会、日赤奉仕団の他、市の関係機関や日本防災士会久留米支部、地元田主丸校区社会福祉協議会、市内の大学生など約100人が参加しました。

市社会福祉協議会では、昨年の熊本地震で現地災害ボランティアセンターの運営を支援した経験から、現地事務所の運営には、職員を中心とするスタッフだけでは不十分で、学生ボランティアなどの協力が必要なことが分かりました。

この経験をふまえ、今回の訓練では、日本防災士会久留米支部と学生ボランティアによる協働運営を想定し実施しました。

ボランティアに対するオリエンテーションの様子

地域住民の協力

大規模災害が発生した場合、より円滑な被災者支援を行うためには、全国から集まる人と地域の実情を理解している地域住民の協力が重要です。

校区社会福祉協議会をはじめ、民生委員や自治会の協力を得て、地域の被災者の困り事の把握と、ボランティアのマッチングをスムーズに行う必要があります。

今回の訓練では、地元の田主丸校区社会福祉協議会の役員に被災者として相談する役割と、被災者の困りごとを災害ボランティアセンターに伝える役割を担っていただきました。こうした災害発生時の支え合いは、日頃の地域福祉活動の延長にあります。

円滑な被災者支援を行うためにも、地域福祉活動の充実を図り、よりきめ細やかな地域の実情把握に努めていきたいと考えています。

皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

被災者宅へ生活用水を届けます

被災者からの相談を聞きとります

西日本鉄道(株)新入社員が体験

市社会福祉協議会が研修事業をサポート

5月22日(月)、市社会福祉協議会は、西日本鉄道(株)が新入社員の研修として実施する「障害者・高齢者疑似体験」の支援を西鉄久留米駅と宮の陣駅で行いました。

この日は車イスや、アイマスクを使った障害者疑似体験のほか、高齢者疑似体験セットを装着して電車に乗り、自分自身で実際に障害や加齢による不自由さを体験してもらいました。体験した社員からは、「普段気にすることのなかった段差に気づいた」「見えないことへの恐怖を感じたが、そばで介助してもらえたことで和らいだ」などの感想があり、お客様に鉄道を安心して利用していただき、よかったと思っていただくために、声かけを行うこと、配慮することの大切さを実感していただきました。

高齢者疑似体験

階段を登ります